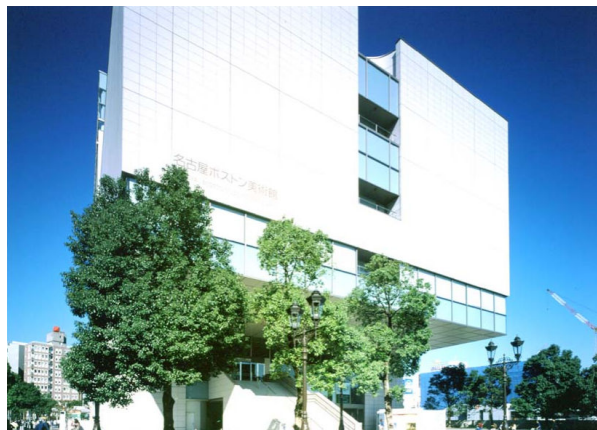


社会教育施設の自己紹介

【施設名】 名古屋ボストン美術館

【施設概要】

名古屋ボストン美術館は、米国ボストン美術館の姉妹館として、1999（平成11）年4月17日、名古屋・金山総合駅前の金山南ビル内に開館しました。以来、同館の約40万点におよぶ世界屈指の美術コレクションの中から選ばれた作品の数々を、魅力的なテーマのもとに紹介する展覧会を開催しています。



また教育普及活動にも力を注ぎ、講演会やギャラリーガイドのほか、大学と連携した教育プログラムや米国ボストン美術館との姉妹館の関係を生かしたイベントなどを企画、実施しています。

館内には、ボストンギャラリー（4階）とオープンギャラリー（5階）の2つの展示室があるほか、図書コーナーやレクチャールームを備え、美術鑑賞をより楽しく充実したものにさせていただくための図書資料の閲覧サービスや映像資料の上映などを行っています。

また、ミュージアムショップでは、ボストン美術館のオリジナルグッズを含めた豊富な商品を取り揃えています。

さらに、子どもたちにもボストン美術館の名品を始めとする美術作品に親しんでいただく機会を提供するため、中学生以下の入館料を無料にしています。

なお、2007年度（12月まで）に開催した展覧会は次の通りです。

「アメリカ絵画 子どもの世界」（4階ボストンギャラリー） …3月17日（土）～8月19日（日）

「シャーフ・コレクション アメリカ車のデザイン 1945 - 70年」（5階オープンギャラリー）

…3月17日（土）～8月19日（日）

「レンブラント版画展 -呼び交わす光と闇-」（両ギャラリー）…9月8日（土）～12月9日（日）

名古屋ボストン美術館 HP → <http://www.nagoya-boston.or.jp/>

【特色ある取り組み】

当館では、ボストン美術館の広範な作品を紹介する展覧会の特色を生かし、来館者に展覧会の内容により興味を持ち、また理解を深めていただけるように、多彩な教育プログラム、イベントを開催しています。2005年からは毎夏に、子ども向けの様々なプログラムを組み入れた「Go! Go! びじゅつかん！」を継続しています。また大学と連携したプログラムも積極的に実施しています。

①名古屋芸術大学との連携による教育プログラム

2004年度より、名古屋芸術大学美術学部美術文化学科アートエデュケーション研究室と連携し、展覧会に関連したワークショップやセルフガイドを学生が主体となって企画、運営するプログラムを開催しています。2007年度は、「アメリカ絵画 子どもの世界」展に関連したワークショップを学生4名が中心となり実施しました。学生に美術館活動を体験してもらふ機会、また大学の研究室との連携という美術館の新たな活動の展開の機会となっています。



展示室内でのワークショップの様子

②南山エクステンションカレッジ講座

2004年度以来、当館では南山大学エクステンションカレッジと連携し、博物館学の入門的講座「まるごと楽しむ名古屋ボストン美術館」を開講しています。当館の館長、学芸員が開催中の展覧会に関連した内容を中心に、教育普及活動や保存活動など美術館の多様な活動を紹介しています。また、姉妹館である米国ボストン美術館の多彩なコレクションを紹介する講座も設けています。

③日米絵はがき交換プログラム

本プログラムは、名古屋ボストン美術館と米国ボストン美術館の姉妹館関係を生かした国際交流活動の一環として2004年から開催しています。共通の美術作品を用いた鑑賞教育プログラムを通じて、異なる文化背景を持つ子どもたちが、相互の共通意識や違いを体感することを目指しています。

2007年は、「アメリカ絵画 子どもの世界」展にちなみ、「みんなの仲間とその暮らし」を共通テーマに実施し、日米あわせて約670人の子どもたちが参加しました。



日米絵はがき交換プログラム作品展示風景

④美術と音楽のコラボレーションプログラム

展覧会の内容にあわせたコンサートや学生による展覧会オリジナル楽曲制作など、音楽を通じて作品鑑賞の可能性を広げるプログラムを試みています。2007年度は、名古屋芸術大学音楽学部の学生による「アメリカ絵画 子どもの世界」展にあわせた楽曲制作、またアメリカ美術展示に関連したジャズを体感するイベント（あいち子ども芸術大学参画企画）を開催しました。また「レンブラント版画展」では、古楽器によるバロックコンサートを開催しました。

⑤体験型プログラム～ワークショップ

展覧会にあわせた体験型のプログラムも実施しています。「レンブラント版画展」では、子ども向けプログラムとして版画ワークショップ「レンブラント体験！」を実施しました。（あいち子ども芸術大学への参画企画）

子どもたちにとっては、ドライポイントで銅版制作する楽しみを味わっただけでなく、作品鑑賞にも役立つきっかけとなったようです。子どもたちの作品は、「レンブラント版画展」の会期終盤に館内に展示しました。

夏にはアメリカ車のデザイン画を紹介した展示にあわせ、ペーパークラフトでアメリカ車をつくるワークショップを開催しました。



版画ワークショップの様子

⑥各種講演会

展覧会により興味を持ち、また理解を深めていただくため、米国ボストン美術館の学芸員や展覧会の監修者等による関連講演会を開催しています。2007年度はさらに「シャーフ・コレクション アメリカ車のデザイン 1945 - 70年」展でカーデザイナー・松浦俊介氏による特別トークや、「レンブラント版画展」では著名な銅版画家の山本容子氏による講演会を開催しました。また当館の馬場駿吉館長による自らの体験を交えた美術との出会い方についての講演会も開催しました。



馬場館長による講演

⑦美術館ニュースの発行

当館の活動を広く知っていただくために、美術館ニュースを年に4回発行しています。展覧会の見どころや関連イベント情報、ミュージアムショップの一押し商品などをタイムリーに紹介しています。

【来館者の推移】

2003（平成15）年度	246,609人	2004（平成16）年度	242,916人
2005（平成17）年度	209,599人	2006（平成18）年度	237,245人

【今後の展覧会】

ボストン美術館 浮世絵名品展—色あざやかなり 江戸の夢—

2008年1月2日（水）—4月6日（日）



歌川国政「市川蝦蔵の暫」

1796（寛政8）年

Photograph (C) 2008 Museum of Fine Arts, Boston. All right reserved.

その質の高さと数は世界随一と評価されるボストン美術館の膨大な浮世絵コレクションの中から第一級の作品のみを厳選し、大多数が日本初公開という豪華なラインナップで初期から幕末までの華麗なる浮世絵の歴史を137点で概観する展覧会。墨一色の墨摺絵に始まり数色を用いる紅摺絵に至った初期の懐月堂派や鳥居派、多色摺りの美しい錦絵で一世を風靡した鈴木春信、迫力ある大首絵で浮世絵の黄金期を築いた喜多川歌麿、東洲斎写楽、そして幕末の葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳に至るまでを4章構成でたどります。